

## 大阪府立住之江支援学校 第1回学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立住之江支援学校
(准)校長名	益子 典子

開催日時	令和 6年 7月 12日(金) 10:30~ 12:00
開催場所	住之江支援学校 図書室
出席者(委員)	伊藤委員 安川委員 今枝委員
出席者(学校)	益子校長 岩井教頭 岡本教頭 田中事務長 島山首席 藤井首席 油田教務部長
傍聴者	0名
協議資料	令和6年度学校経営計画及び学校評価、実施要項、傍聴要領
備考	

議題等(次第順)
1. 校長挨拶
2. 令和6年度 住之江支援学校 学校運営協議会 実施要項確認
3. 学校運営委協議会委員 及び事務局 自己紹介
4. 委員委託
5. 令和6年度 学校経営計画及び学校評価について
6. キャリア教育の取り組み(アビリンピック参加の紹介)
7. 今後の予定
協議内容・承認事項等(意見の概要)
・令和6年度 学校経営計画及び学校評価の確認(承認)
意見の概要
1 確かな専門性を基盤とした教育活動の展開と地域支援の推進
・保護者向け授業参観週間を年1回開催する。
・校内支援委員会の充実を図る。
2 全校で取り組むキャリア教育の推進
・レジリエンスを高める学校全体で取り組むキャリア教育を推進。
・中学部段階からの職業体験学習の推進。
・授業で身に付けたことを次につなげていく力の獲得
3 安全安心を保障できる体制づくり
・より実務的な防災教育及び健康教育(食育・感染症予防を含む)を実践し、事故防止を徹底する。
・避難訓練の保護者参観の計画
・アレルギー研修の充実を行う。また、ヒヤリハット報告を全校で共有し、事故防止の徹底を図る。
4 学校組織の充実と健康的な職場環境の整備
・新しい校務分掌組織による実践と検証を行う。
・ICT等を活用しての会議の効率化やペーパーレス化を図る。
伊藤委員)自分の会社でも働き方改革で会議の時間を減らすように言われている。学校でもすすめていくことが必要。
益子校長)働き方改革といっても教育の質は下げられないで、何が大切で必要かということを見極めないといけない。そのうえで、削減できる業務を決めていく。例えば、高等部の学年だよりをHPへのブログに移行している。目的は何かを考えたとき、学校の教育活動の発信であると考えブログに変更していく。
安川委員) 中学部段階からの企業での職業体験をし、若いうちから仕事について学ぶことができるのととても良いことだと思う。今後、もっとすすんでいくと良いと思う。
益子校長) 自分のテリトリーを離れて体験をするということは、大切なことだと思う。小学部の児童も高等部での実習を見学したり、体験したりしている。今取り組んでいる自立活動や教科学習にもキャリア教育の部分があり、将来につながっていくという観点でいえば、日々の教育活動がキャリア教育になっていくと考えている。
今枝委員) 文部科学省「幼児から取り組むキャリア教育」を言っている。幼児から取り組むキャリア教育とは何ぞやといふと、「相手の話を聞いて取り組む」や、「集中して取り組む」などになる。キャリア教育をイベント化するのは良くない。校長先生が先ほど言われたように、普段の授業からキャリア教育との関連を図ることが大切。キャリア教育は成果主義になつてはいけない。その子が技能だけでなく、技能以上に何を身に付けたかということを評価できるようにならないといふ。自立活動とキャリア教育、教科指導とキャリア教育、自立活動—教科指導—キャリア教育の関係性を見ていくことができたら良いのかなと思う。授業を授業で終わらせないことが必要。「場所を変えてもできる。」ということが大切。イベントをどう考えていくかということも必要。
保護者と連携した避難訓練はよく課題となっている。一般化していくことが大切。二次災害が起きた後、避難した後のことを考えることにはなかなかできないので、それも必要。
新しい分掌の検証が必要。
益子校長)今まで行っていた学習発表会は特別時間割の期間も長く、それまでの学習活動が途切れてしまっていた。日々の授業を充実させることとし、これまでの学習発表会を廃止し、2月に行っている作品展と参観の行事を新しく学校祭とした。今年度は昨年度と同様の開催となるが、今後内容を検討し充実させていく。

次回の会議日程
日時 令和6年 11月予定
会場 住之江支援学校 図書室